

2025

SUPER GT RACE REPORT

Rd.3

6.27[fri] - 28[sat]

[place] セパン・インターナショナル・サーキット (マレーシア セパン)

[weather] [fri] 晴れ / [sat] 曇り

[spectators] 75,977人 ([fri] 28,524人 / [sat] 47,453人)

SEPANG

INTERNATIONAL CIRCUIT



Rd.1 OKAYAMA >>>>>>> APR 12-13

Rd.2 FUJI >>>>>>>>>>> MAY 03-04

Rd.3 **SEPANG** >>>>>>> JUN 27-28

Rd.4 FUJI >>>>>>>>>>> AUG 02-03

Rd.5 SUZUKA >>>>>>>>>>> AUG 23-24

Rd.6 SUGO >>>>>>>>>>> SEP 20-21

Rd.7 AUTOPOLIS >>>>>>> OCT 18-19

Rd.8 MOTEGI >>>>>>>>>>> NOV 01-02

TOM'S



2025 AUTOBACS SUPER GT Round3 SUPER GT MALAYSIA FESTIVAL 2025 が、6月27日（金）、28日（土）にマレーシアのセパン・インターナショナル・サーキットで行われた。#37 Deloitte TOM'S GR Supra（笹原右京／ジュリアーノ・アレジ）は、公式練習から好調な走りをみせて予選4番手を獲得。ピットストップを遅らせる作戦で逆転トップに浮上し、最後はライバルに19秒もの差をつけて、今季初優勝を飾った。



TGR TEAM Deloitte TOM'S

Rd.3 Result

Qualifying	4 位	Driver Standings	2 位
Race	1 位	Team Standings	2 位

Qualifying 1	笹原：P5 / 1'51.295
Qualifying 2	アレジ：P4 / 1'50.493
Race	笹原：1'54.601
ファステストラップタイム	アレジ：1'55.552

QUALIFYING

天候：晴れ／気温：31℃／路面温度：37℃



目まぐるしく変わる 路面コンディションに対応しながら、 予選では4番グリッドを獲得。

今回の舞台となるセパン・インターナショナル・サーキットで SUPER GT が開催されるのは実に 12 年ぶり。走行経験がないドライバーやチームがいることを考慮し、26 日（木）に公式練習のセッションが 1 つ追加された。37 号車の笹原とアレジは、シーズンオフのテスト走行で同地を走り込んでいることもあり、最初の走行から積極的に周回を重ね、マシンのセッティングやタイヤの状況を確認。調子も上々で、公式練習 1 回目は 2 番手、公式練習 2 回目は 7 番手につけた。

27 日（金）16 時 30 分から始まった予選では、笹原が Q1 を担当。走行セッションごとに路面コンディションが微妙に変わり、それらに合わせ込んで走るのが難しいなか、5 番手タイムで通過した。続く Q2 はアレジが担当しポールポジションを目指して果敢にアタック。最終的に 4 番手でセッションを終え、優勝を狙える位置を確保した。

Race

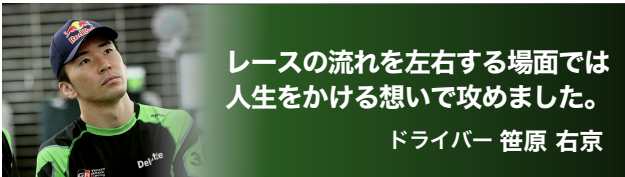
天候：曇り／気温：30℃／路面温度：38℃

笹原の力走で、逆転トップに浮上。 後半のアレジもライバルを引き離し優勝。 TOM'Sにマレーシア大会初優勝をもたらす。

曇り空のなかで始まった Round3 の決勝レース。4 番グリッドの 37 号車は、笹原がスタートドライバーを務めた。7 周目に 1 台を抜いて 3 番手に上がると、そのまま前を走るライバルを追いかけるが、そこからは順位の変動はなくこう着状態が続いた。20 周目になってライバルが次々とピットインするなか、37 号車はコース上に留まって後半にピットインする作戦を選んだ。笹原も限界までペースを上げてライバルとの差を広げていき、全体の折り返しを過ぎた 32 周目にピットイン。ここでアレジがマシンに乗り込み、トップのままコースに復帰。見事、逆転に成功した。

ピットアウト直後に一度ライバルに並びかけられるシーンがあったが、しっかり守り切ったアレジ。タイヤが温まってくると徐々にペースを上げて後続を引き離していく快走を披露。最終的に 19 秒もの大差をつけて、今季初のトップチェッカーを受けた。37 号車にとっては昨年の Round6 SUGO 以来となる、TOM'S としてはセパンでの SUPER GT 初勝利となった。

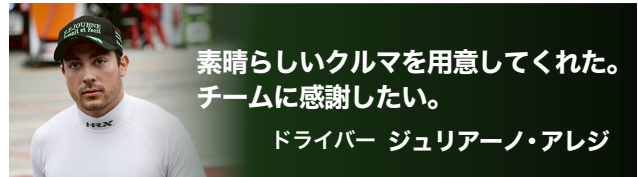




レースの流れを左右する場面では人生をかける想いで攻めました。

ドライバー 笹原 右京

予選日はテストの時と路面コンディションが異なり難しい部分もありましたが、クルマの調子は良かったです。決勝の序盤はタイヤを労って、予定通りピットを遅らせる作戦をとりました。僕のステントで最後の5～6周くらいが、このレースでの重要な局面だったので、人生をかける想いで全てを注ぎ込みました。チームが素晴らしいクルマを用意してくれましたし、ブリヂストンの素晴らしいタイヤのおかげでトップのままコースに戻ることができました。



素晴らしいクルマを用意してくれた。チームに感謝したい。

ドライバー ジュリアーノ・アレジ

セパンはテストで走行経験がありましたが、今回は路面コンディションが大きく異なっていて、そこに合わせるのが難しかったです。正直、予選でのアタックも満足できるものではありませんでした。右京からマシンを引き継いだ時は、アウトラップが重要になると思いました。14コーナーでライバルに迫られたのですが、そこを守って逃げるのができたので安心しました。あの瞬間が、このレースのターニングポイントだったのかもしれない。



チーム監督 ミハエル・クルム

オーバーカット（ライバルよりピットを遅らせて逆転する）の作戦に関しては本当に悩みました。右京も途中でタイヤが苦しくなる場面がありました。それがなくなってから周りより速いペースで走って、ギリギリのところで作戦が成功しました。ジュリアーノもピットアウト直後のディフェンスと、その後のペースが素晴らしかったです。今年は全戦でポイントを獲得することを目標にしていますが、ここまで達成できています。次戦も引き続き頑張ります！



チームオーナー 館 信秀

今回の37号車は完璧でした！ 作戦もしっかり決まって、笹原がその通りに走ってトップに立てましたし、何より後半のジュリアーノが素晴らしい走りをみせてくれました。この勢いで、次もどんどん行ってほしいと思います。これで1号車とともにTOM'Sがシリーズランキングでワンツーになりました。後半戦はどうなるか分かりませんが、この2台がチャンピオン争いをする姿が見られるのを楽しみにしたいです。次戦も、たくさんの応援をよろしくお願いいたします。

Deloitte.

BINGO

アヴェット・フヨミ

ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

TGR-D

BRIDGESTONE

OKANO Express

ほうらいせん
www.houraisen.co.jp

ISSE

BRIDE

長海鷗

S&D TAMA GROUP

ENKEI

ThreeBond

HRX

Mizuno

MECHANIX WEAR